

IV 生涯学習社会をつくる
1 生涯学習・社会教育の総合的推進

(1) 社会教育活動の推進 << 施策 2 3 >> 社会教育課

令和元年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 高度化、多様化する県民の学習ニーズに応えるため、よりよい学習環境を提供します。
- ◇ 県民の学習ニーズや社会的課題に対応した学習機会を提供するとともに、学習成果を活用する機会の充実を図ります。
- ◇ 県民の学習に対する意欲を高め、主体的な学習活動を促進するため、関係機関、団体（PTA・子ども会など）との連携・協力体制を強化します。

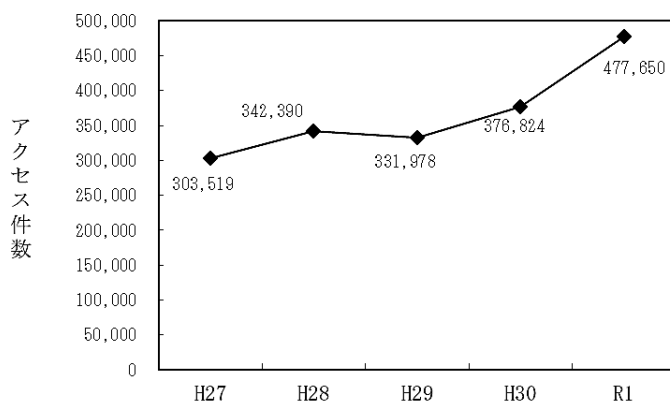
令和元年度 主な取組・事業

取組・事業名	実績
NPOやボランティア団体との連携・協力の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんなで育もう！ふくおかの子ども育成支援フォーラム 参加者 168 名 ○ 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会の開催（2日間） 参加者延べ 585 人
社会教育関係団体等に対する育成支援・補助	○ 公共性のある適切な活動を行う社会教育団体への助成 10 団体
社会教育関係職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市町村社会教育関係職員研修（2回） 参加者延べ 162 人 ○ 社会教育専門研修（2回） 参加者延べ 81 人 ○ 県社会教育主事等研修会 参加者延べ 192 人
ふくおか社会教育応援隊事業の実施 <重点事業16>	○ ふくおか社会教育応援隊派遣回数 1,148 回
県立社会教育総合センター等での学習情報の提供及び学習相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふくおか社会教育ネットワーク アクセス件数 477,650 件 ○ メールマガジンの配信 年 12 回（登録者数約 500 名）
現代的な課題に関する学習機会の提供とボランティア活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現代的課題対応研修 「学校とともにある地域づくり・人づくり推進セミナー」（3回） 参加者延べ 254 人 ○ 環境ボランティア養成研修 in 英彦山（2回） 参加者延べ 36 人 ※1回は台風接近に伴い中止

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値	達 成 状 況
社会教育に関する学習情報提供の充実	「ふくおか社会教育ネットワーク」へのアクセス件数	477,650 件 (R1 年度)	300,000 件 (毎年度)	◎

ふくおか社会教育ネットワークへのアクセス件数



成 果 社会教育関係職員・団体等を対象とした研修会をとおして、学習のニーズや社会的課題に応じた学びの場を提供することができました。

- ・ 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会の企画・運営にあたっては、実行委員会と社会教育関係職員が連携し、生涯学習・社会教育に係る実践協議を深めるとともに、NPOやボランティア、企業等、地域で活動する様々な団体等のネットワークを築くことで、地域の連携・協力体制の充実と教育環境整備等、地域の様々な課題の解決に役立てることができました。
- ・ みんなで育もう！ふくおかの子ども育成支援フォーラムでは、家庭教育や子育て支援に関わる個人や団体、行政担当者が集い、学習や交流を通して、家庭教育や子育て支援等の在り方を考えるとともに、参加者同士のネットワークの構築を図ることができました。
- ・ 社会教育関係団体へは、助成を行うだけでなく積極的な情報提供等を行うことで、各団体の特色ある活動を生かした地域における社会教育振興につながりました。
- ・ ふくおか社会教育応援隊事業では、市町村や学校等からの要望に応じて社会教育主事等を派遣し、家庭教育支援や青少年教育等、社会教育に関する情報提供や学習方法の提供を行いました。また、「令和元年度福岡県社会教育関係事業事例集」を作成し、各市町村・関係機関等に配布することで、事業内容の周知につながりました。
- ・ 県民の学習ニーズや社会的課題に対応するための基礎研修や専門的研修を実施することで、参加者の資質・能力の向上を図るとともに、関係者同士のネットワークづくりにもつなげることができました。

課 題 地域の人材育成や課題解決につながる研修の充実が求められています。

- ① 家庭教育や子育て支援、子どもの貧困問題、環境問題等、現代的な課題の解決につながる研修が求められています。
- ② 家庭教育支援や青少年教育等、社会教育に関する情報提供や学習方法の提供など、市町村や学校等からの要望に応じた内容の充実を図る必要があります。
- ③ 社会教育関係団体等と密に情報交換を行いながら、さらなる連携・協働を図る必要があります。
- ④ SNSのみの利用者が増加していることや情報収集に使用する端末（使用機器）の多様化に伴い、より県民のニーズに応えられるよう情報の発信方法を検討する必要があります。

対 応 学習情報の提供、学習の場を充実させます。

- ① 生涯学習・社会教育関係者やNPO団体、更には大学関係者や企業等、様々な立場の人々の学習のニーズを幅広く把握することや、そのニーズに応じた課題の解決につながる学習と交流の場を設定するなど、市町村職員、ボランティア等、社会教育関係者が地域の課題解決や社会教育振興に資する研修の充実を図ります。
- ② 提供する情報等の内容充実を図るとともに、団体等の育成支援、活動等の活発化支援及び運営補助等を実施していきます。
- ③ 社会教育関係団体に対して学習情報の提供を適切に行い、より多く情報交換を行えるようにします。
- ④ より多くの県民のニーズに応えられるよう情報収集し、必要な情報を適切に発信するために、情報収集に使用する端末（使用機器）やソフトの変容への対応について研究していきます。

IV 生涯学習社会をつくる
2 生涯学習・社会教育環境の整備

(1) 社会教育施設の充実 <<施策24>> 社会教育課

令和元年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 社会教育を振興する県立社会教育施設の機能充実と利用促進を図るとともに、県民のニーズに対応できるように社会教育関係職員の専門性を高めます。

令和元年度 主な取組・事業

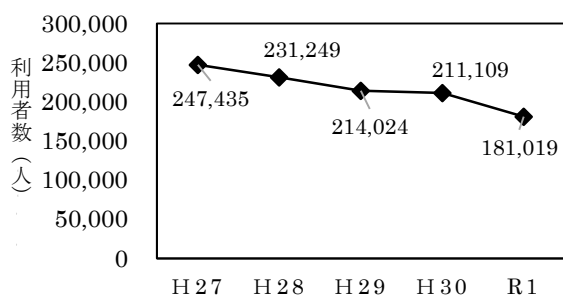
取組・事業名	実績
県立社会教育施設の機能充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県立社会教育施設における事業内容改善、体験プログラムの開発 ○ 県立図書館 <ul style="list-style-type: none"> ・ 遠隔地サービス利用数 12,517 冊 ・ 学校貸出図書セット 4,200 冊 (105 セット×40 冊) ・ レファレンス受付数 49,399 件 ○ 県立図書館および公立図書館等の相互ネットワーク構築 貸出借受冊数 18,194 冊
県立社会教育施設の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県民の利用促進を行うため、企業や大学等への周知、広報活動の充実と開所日数の増加 社会教育総合センター、英彦山青年の家、少年自然の家「玄海の家」の開所日数 942 日 ○ 県立社会教育施設（社会教育総合センター、英彦山青年の家、少年自然の家「玄海の家」、3施設） 研修者数 181,019 人 ○ 県立図書館 図書館貸出冊数 394,087 冊 ○ 青少年科学館 入館者数 310,842 人
社会教育施設職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ プレイリーダー^{注1)}研修（福岡県子ども会育成連合会と共催） <ul style="list-style-type: none"> ・ プレイリーダー1級（少年自然の家「玄海の家」において2回開催） 受講者数 36 人 ・ プレイリーダー2級（6教育事務所において各1回開催） 受講者数延べ 231 人 ○ 専門研修 <ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土資料研修 参加者 68 人 ・ 参考調査業務研修 参加者 13 人 ・ 「子どもと読書」研修会 参加者 176 人 (入門講座 44 人、専門講座 132 人)

指 標

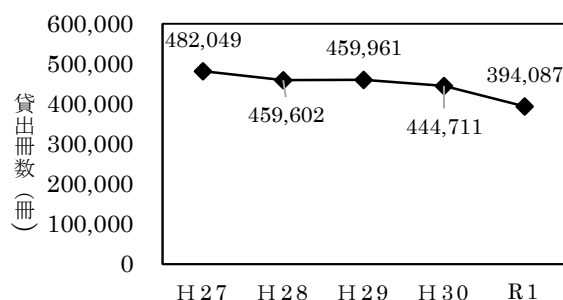
指 標	指 標 の 概 要	現状値	目標値	達成状況
県立社会教育施設の利用	県立社会教育施設の利用者数（社会教育総合センター、英彦山青年の家、少年自然の家「玄海の家」）※1	181,019 人 (R1 年度)	223,000 人 (毎年度)	△
県立図書館の利用	県立図書館の図書貸出冊数 ※2	394,087 冊 (R1 年度)	460,000 冊 (毎年度)	△
	県立図書館の図書貸出利用者数 ※2	149,589 人 (R1 年度)	171,000 人 (毎年度)	△
青少年科学館の利用	青少年科学館の入館者数 ※2	310,842 人 (R1 年度)	318,700 人 (毎年度)	△

※1 新型コロナウイルス感染症拡大防止措置のため休館 R2年3月から
 ※2 〃 R2年2月から

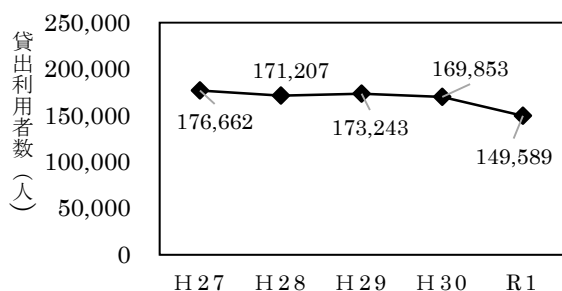
社会教育総合センター、英彦山青年の家、少年自然の家「玄海の家」の利用者数



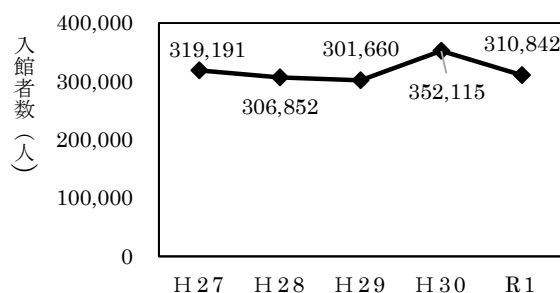
県立図書館の図書貸出冊数



県立図書館の図書貸出利用者数



青少年科学館の入館者数



成 果 県立社会教育施設では、県民のニーズに応える事業内容の改善やプログラムの開発に取り組みました。

- ・ 県立社会教育施設では、県民のニーズに応える事業内容の改善を進めたほか、施設の特徴を活かした新たなプログラムを各施設において開発し、取り組むことができました。
- ・ 県立図書館では、学校貸出図書セットの貸出や遠隔地サービスの充実、利用者サービスの向上に努めました。
- ・ プレイリーダー研修を県内6か所で実施したことで、多くの専門的な知識や技能を修得した指導者を養成することができ、関係団体の活性化につながりました。

課 題 施設の特徴を生かし、県民のニーズに更に応えるための工夫が必要です。

- ① 社会教育総合センター、英彦山青年の家、少年自然の家「玄海の家」においては、今後も子どもの体験活動の一層の充実や指導者養成など、県民のニーズに更に応えるため、魅力ある事業の開発と人材育成が必要です。
- ② 県立図書館においては、大学の移転等があり、貸出利用者数は減少しています。今後の利用者増を図るためにも、更なる図書館の利用促進が必要です。
- ③ 青少年科学館においては、民間の専門機関との連携・協力を視点に、利用者のニーズに応じた、より効果的な事業運営に努める必要があります。

対 応 施設利用者を増やせるようサービスと機能の充実を行います。

- ① 社会教育総合センター、英彦山青年の家、少年自然の家「玄海の家」においては、今日的課題に対応した研修を一層充実させ、立地条件を生かした体験活動プログラムの開発及び人材育成を継続的に行います。また、施設間や地域との効果的な連携事業等を実施することで県域での事業の活性化を推進します。
- ② 県立図書館については、市町村立図書館等との連携強化を一層図るとともに、県立図書館の特徴や魅力を発信し、利用者へのサービスの充実に努めます。
- ③ 青少年科学館については利用者のニーズを的確に捉え、企画や特別展、プラネタリウム番組等の充実を行います。

注釈

注1) プレイリーダー：県において定められた内容の研修を受講し、修了証を取得した者であり、安全に配慮しながら様々な体験活動、子どもの成長に合わせたものづくりや屋外での遊び等を指導する者。